

## 亀岡文殊

奈良県の安倍文殊院、京都の切戸の文殊と日本三文殊の一つ。松高山大聖寺で真言宗智山派。平安時代の大同2(807)年に徳一上人が文殊堂を開創と伝えられる。直江兼続が慶長7(1602)年2月27日に歌会を開催し、詩歌百首は、『直江兼続等詩歌百首帖』として存在。



徳一(とくいつ)は法相宗(本山興福寺, 薬師寺)の僧。最澄とのあいだの三一権実諍論が有名。福島県耶麻郡磐梯町にある真言宗豊山派の恵日寺(えにちじ, 慧日寺)を開基、恵日寺の平安時代初期の寺院遺構が国の史跡指定されている。三一権実諍論(さんいちごんじつのそうろん)は、最澄は、出家修行しない人でも仏果(悟り)を得られるという一乗説、徳一は、人間には区別があり、誰でも悟りを得られるものでないとする三乗説を説く。大乘仏教と小乗仏教の争いだが、その後の日本仏教は大乘仏教の流れとなる。

## 高梨利右衛門

寛文4年(1664)上杉綱勝が急死し保科正之の尽力で吉良上野介義央の子・綱憲を末期養子に迎えたが、30万石から15万石に減封、福島の信達地方と屋代郷を失った。屋代郷3万7千石は米沢藩預地になったが、悪政に対し寛文6年(1666年)、二井宿村肝煎の高梨利右衛門(島津利右衛門)は、62か条の目安を信夫代官所に提出した(「信夫(寛文)目安事件」、この目安は細々とした年貢徴収の実態を知れる)。しかし、越訴の罪により、元禄元年(1688年)、二井宿の一の坂の処刑場で磔。地元では彼を義民とし、一の坂刑場には墓、亀岡文殊堂に「南無阿弥陀仏」「極重悪人」の供養塔、没後140年にあたる文政10年(1828年)、武田孫兵衛(武田鳥海山人)の揮毫による「大酬恩碑」が二井宿に建てられた。なお、初代の「大酬恩碑」は屋代郷文久騒動(幕末に屋代郷を米沢領とすることに村民が反対し仙台藩に助力を求めた)にともない破却されている。一方、米沢市史では、利右衛門の伝説は史実でなく、信夫目安(寛文目安)は怪文書の類いとの指摘もある。

## 伊達家・高畑城

建久3年(1192)、鎌倉幕府誕生とともに、置賜の地は長井氏が支配していたが、伊達宗遠(8代)が長井広房を攻略(1380年)以降、天正19年(1591)岩出山城に移されるまで伊達家が支配した。応永9年(1402)、儀山政宗は、関東公方足利満兼の命を受けた関東管領上杉氏憲(禅秀)に破れ居城の赤館城(桑折町, 西山城とも)が落城、一時、高畑城を居城にしたとも言われる。その後、伊達は赤館城・梁川城などと高畑城両者を居城とした。置賜支配は、晴宗代に米沢城に移るまで、7代(儀山政宗、氏宗、持宗、成宗、尚宗、植宗)にわたり、「高畑城」を中心に施政を行った。高畑城は、承安年間(1171~)藤原秀衡

(ひでひら)のいとこ樋瓜五郎季衡(ひづめぐろうすえひら)の築城と伝えられ、形状が  
つり鐘に似ているため、別名を鐘ヶ城と呼ばれていた。現在は、高島小学校の校門前にあ  
るお堀だけが残る。輝宗・政宗の頃、伊達氏は高畑城のほか、要所要所に家臣を配し統治  
したが、一部長井氏時代の砦も含め、そのうちいくつかの山城居館跡が残っている。主な  
ものとして屋代館(二井宿峠)、志田館、塩森館、竹森館、一本柳館、亀岡館、館ヶ崎館  
があるが、一部は古戦場でもあった

## 儀山政宗の墓

明治 21 年に伊達家の家職作並清亮氏が、湯の原東光寺の記録から、高島城付近を調査し  
野手倉に五輪 2 基を発見。九代政宗(法名は東光寺殿儀山円孝大居士)と、その室、紀氏  
(輪王寺殿蘭庭明玉尼大姉)の墓であることが判明した。明治 37 年 9 月、伊達家は作並  
氏を派遣し 500 年祭を執行、新たに墓標 2 基を建てた。伊佐早謙によると儀山政宗は高畑  
城で死去、当時高畑根岸にあった東光寺(後に湯ノ原に移転)に埋骨されたという。

## 安久津八幡・高島町郷土資料館・うきたむ風土記の丘

安久津八幡は貞観 2 年(860)慈覚大師が阿弥陀堂を創建、康平年間に源義家が八幡宮を  
創建の伝承。別当神宮寺、学頭金蔵院、衆徒頭千殊院のほか最盛期には 12 坊があり、  
屋代郷総鎮守の聖地だったが、明治の神仏分離・廃仏毀釈で寺院はすべて廃絶。三重塔は、  
寛永 2 年(1625)米沢大町の豪商鈴木十左衛門が寄進。風で倒壊し寛政 9 年(1797)再建。町  
立郷土資料館は昭和 54 年開館。県立うきたむ風土記の丘は、中世までの考古資料展示。

## 夏刈伊達家の墓

松川の右岸川西街道のそばに 4 基の  
五輪の墓石がある。儀山政宗夫婦、  
独眼竜の父輝宗と輝宗に殉死した重  
臣遠藤山城守の五輪塔である。資福  
寺境内地であったので、儀山夫妻の  
墓を野手倉から遷したともいわれる。

## 資福寺跡

慈雲山資福寺は弘安年間に長井氏 3  
代時秀が建立。建長寺末寺で出羽国  
一の名刹であった。

第 16 代伊達輝宗が元亀 3 年(1572)  
虎哉宗乙を住持に招き、第 17 代政  
宗(梵天丸 1567 生)は少年時代に政宗館から資福寺に通い、虎哉宗乙を師として、片倉  
小十郎、伊達成実らとともに過ごしたといわれている。資福寺は、伊達氏が岩出山転封し  
た天正 19 年伊達とともに移り、現在は仙台市北山のあじさい寺として有名で、当研究会  
の 2013 年研修旅行で我々も訪れている。永仁 4 年(1296)銘の資福寺の洪鐘があり、天  
正 19 年から大聖寺(亀岡文殊)が管理していたが昭和 26 年鋳つぶされてしまった。現在  
文殊さまにあるのは復元複製である。

